

安芸高田市総合計画審議会 第2回資料

資料 1 第 1 回審議会の振り返り

資料 2 主要な論点事項

資料 3 第 3 次安芸高田市総合計画策定の進め方

資料 4 第 3 次安芸高田市総合計画基本構想の素案

資料 5 次期人口ビジョン・次期総合戦略の素案

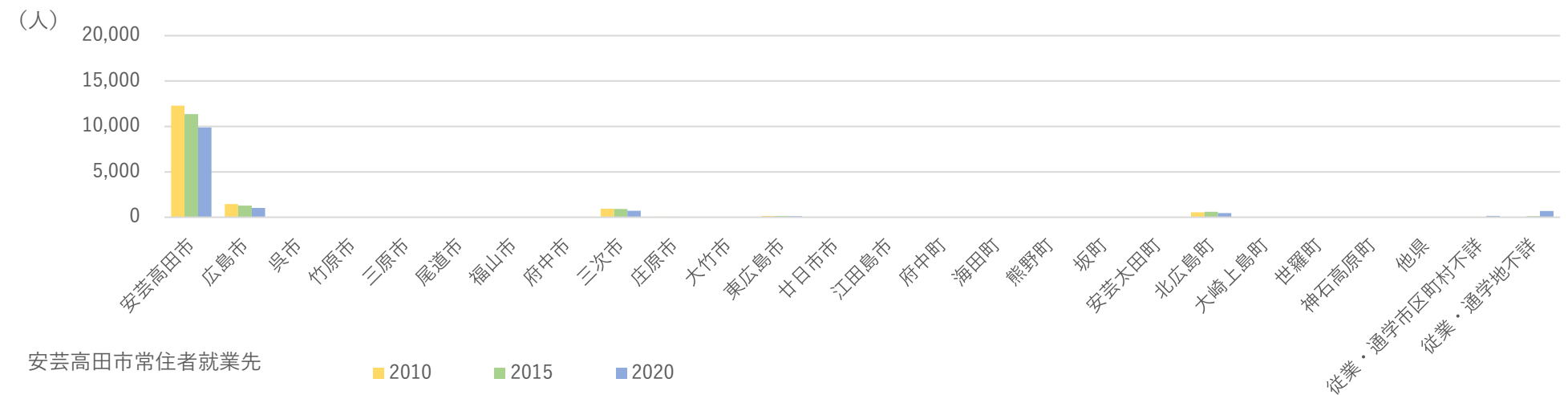
【参考資料】 アンケート調査（通勤者・外国人）の概要

資料 1 第 1 回審議会の振り返り

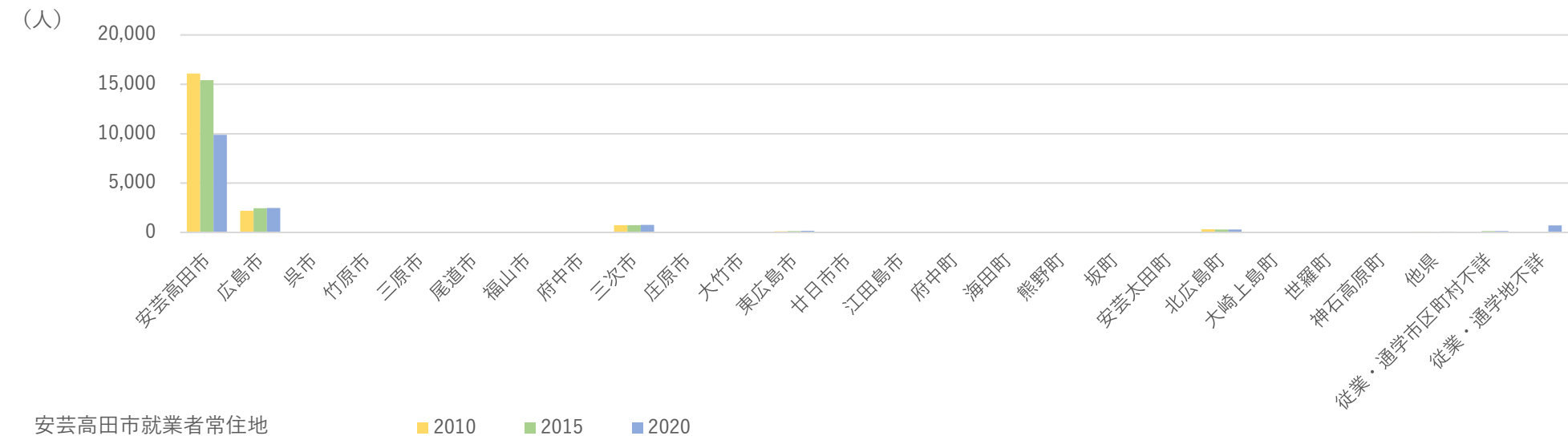
委員主要意見		対応方針	
テーマ	内容		
目標人口		・将来の人口変化が地域に与える影響を分析します。	
先進事例		・今後の施策検討で先進事例調査を実施します。	
今後の 施策検討	通勤者	・安芸高田市は通勤者が増加、通勤者を定住させるために必要なことを分析する必要がある。 ・通勤者が多いのは、安芸高田市の教育の問題があるはず。対応策を考える必要がある。	・今後、通勤者向けアンケート調査を実施します。
	外国人	・外国籍の人口は増加している。外国籍の方へのアンケート調査を実施して、ニーズを把握することが重要である。	・今後、外国人向けアンケート調査を実施します。
	高齢者	・高齢者が元気で暮らせるように、地域で活躍出来る場があると良い。	・基本計画で、高齢者に係る施策の検討を行います。
	転出者	・安芸高田市から他市町村に転出する方に、なぜ転出したのか理由が聞けると良い。	・広島県人口移動統計調査（乙調査）を活用して、転入者・転出者の移動理由を分析します。
	産業振興	・農地としてどこを残せるか示せると、若者などにとって分かりやすいと思う。	・将来の人口変化をメッシュ単位で把握して、将来的に残せる農地等の検討を行います。
アンケート調査		・地区別のアンケート調査結果の統計的妥当性が担保出来るようにします。	
主要な論点事項		・継続的に議論すべき事項として位置付けます。	

- ・ 安芸高田市常住者の就業先の推移をみると、安芸高田市から各市町村への通勤者数は減少しています。
- ・ 安芸高田市就業者の常住地の推移をみると、各市町村から安芸高田市への通勤者数は全体的に減少傾向にありますが、**広島市から安芸高田市への通勤者は増加傾向**にあります。（2010年：2,198人、2020年：2,478人）

■安芸高田市常住者の就業先の推移（安芸高田市⇒他市町村）



■安芸高田市就業者の常住地の推移（他市町村⇒安芸高田市）

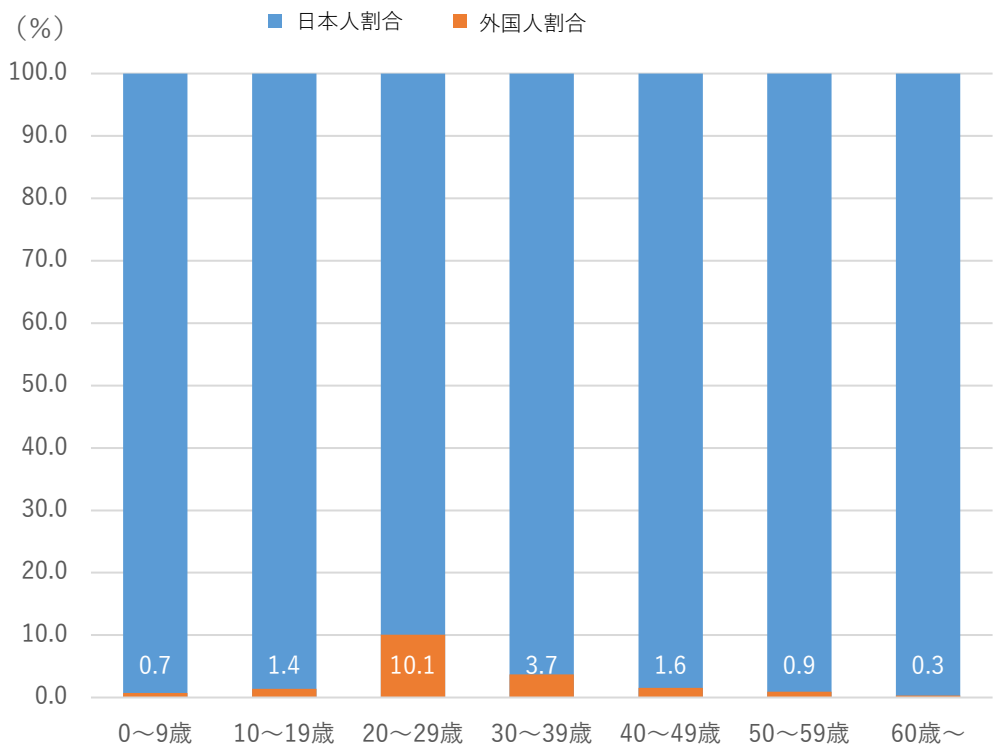


出典：総務省「国勢調査（2010年・2015年・2020年）」

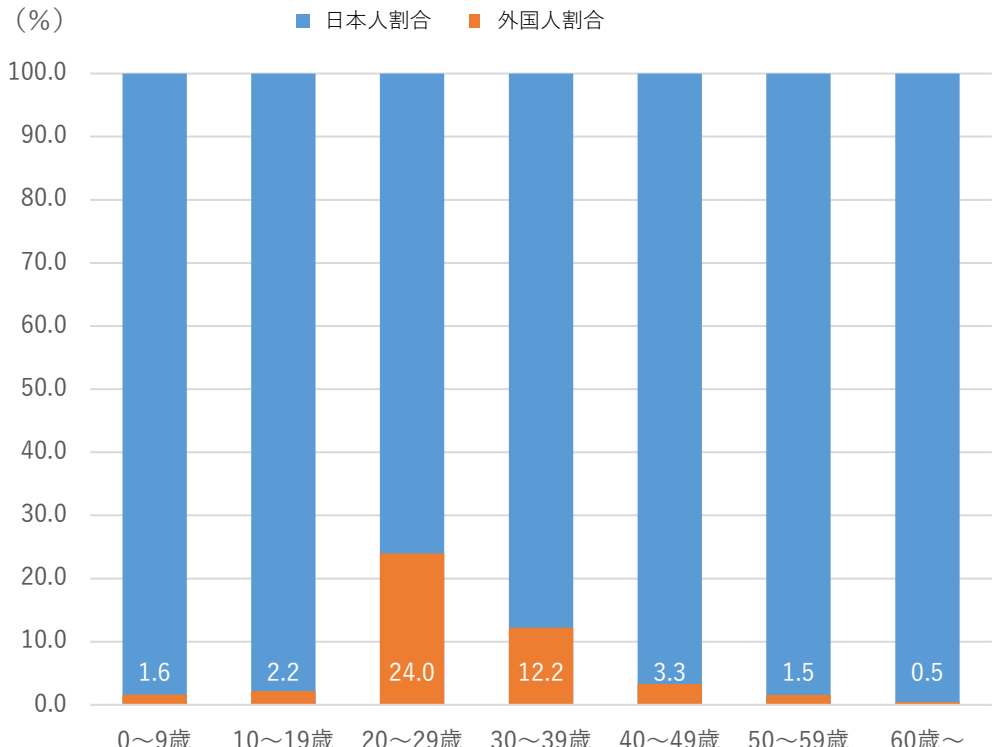
・ 安芸高田市における外国人の動向をみると、特に20-29歳、30-39歳の年齢層で外国人割合・実数ともに増加しています。

・ 外国人は、安芸高田市における新たな担い手として、期待されます。

■安芸高田市における年齢階級別の日本人・外国人の割合（2014年）



■安芸高田市における年齢階級別の日本人・外国人の割合（2024年）



単位：人

年	区分	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
2014年	総人口	2,141	2,614	2,641	3,072	3,250	3,640	13,633
2014年	日本人	2,126	2,578	2,375	2,958	3,199	3,607	13,591
2014年	外国人	15	36	266	114	51	33	42
2024年	総人口	1,442	2,156	2,266	2,083	3,000	3,241	12,423
2024年	日本人	1,419	2,109	1,723	1,828	2,901	3,191	12,367
2024年	外国人	23	47	543	255	99	50	56

資料 2 主要な論点事項

①次期総合計画の基本構想について

【前提】

- ・人口減少、財政規模縮小、機能の存続/廃止/縮小について

【将来像】

- ・将来像の検討方法について
- ・世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観について

【政策体系】

- ・基本構想に位置付ける政策体系について
- ・住民自治組織の在り方について

②次期人口ビジョンについて

【目的の明確化】

- ・何のために目標人口を設定するか
⇒アウトカム（生活サービスの維持、小学校の維持など）

③次期総合戦略について

【ターゲット設定】

- ・人口減少対策として誰を重点ターゲットにするか
⇒外国人、関係人口（通勤者、大学生、神楽ファンなど）、20-30代女性など

【総合戦略に位置付ける施策】

- ・分野を横断する重点的な施策として、何が想定されるか

④シンポジウムについて

- ・シンポジウムのプログラムについて

資料 3 第 3 次安芸高田市総合計画策定の進め方

検討事項		R6年度												R7年度【予定】																													
		8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月		
計画・戦略	第3次総合計画基本構想				● 骨子							● 素案								● 原案					● 公表																		
	第3次総合計画基本計画																		● 骨子								● 素案							● 原案							● 公表		
	次期総合戦略				● 骨子							● 素案								● 原案					● 公表									● 修正							● 公表		
	人口ビジョン				● 骨子							● 素案								● 原案					● 公表																● 公表		
市民参画	市民アンケート調査	← 調査票設計 → 調査物件作成 → 実査期間 → 集計・分析 →																																									
	地域別インタビュー	← 企画・準備 →			← インタビュー →			← とりまとめ →																																			
	分野別インタビュー	← 企画・準備 →			← インタビュー →			← とりまとめ →																																			
	子育て世代インタビュー				← 企画・準備 →			← とりまとめ →																																			
	高校生地域の魅力化授業	← 企画・準備 →			← 参加者募集 →			← 計15回開催 →			← とりまとめ →																																
	シンポジウム	← 企画・準備 →			← 関係者調整 →			← シンポ講演資料の作成支援 →			●																																
	地区別説明会																												← 企画・準備 →			← 説明会 →											
	パブリックコメント																			●																	●						
各種検討会	審議会				① ●						② ●								③ ●						① ●								② ●						③ ●				
	庁内検討会議							① ●						② ●					③ ●						① ●								② ●							③ ●			
	幹部会議									① ●							② ●						③ ●					① ●							② ●						③ ●		
庁内調整	市長インタビュー			●						●									●					●				●						●									
	関係各課調整						← 関係各課ヒアリング →																																				

10

資料 4 第 3 次安芸高田市総合計画基本構想の素案

- ・第3次安芸高田市総合計画の全体像は以下のとおりです。
- ・総合戦略は基本計画に包括し、各政策・施策を横断する基本目標を設定、人口減少対策となる施策・事業を位置付けます。

【基本構想】

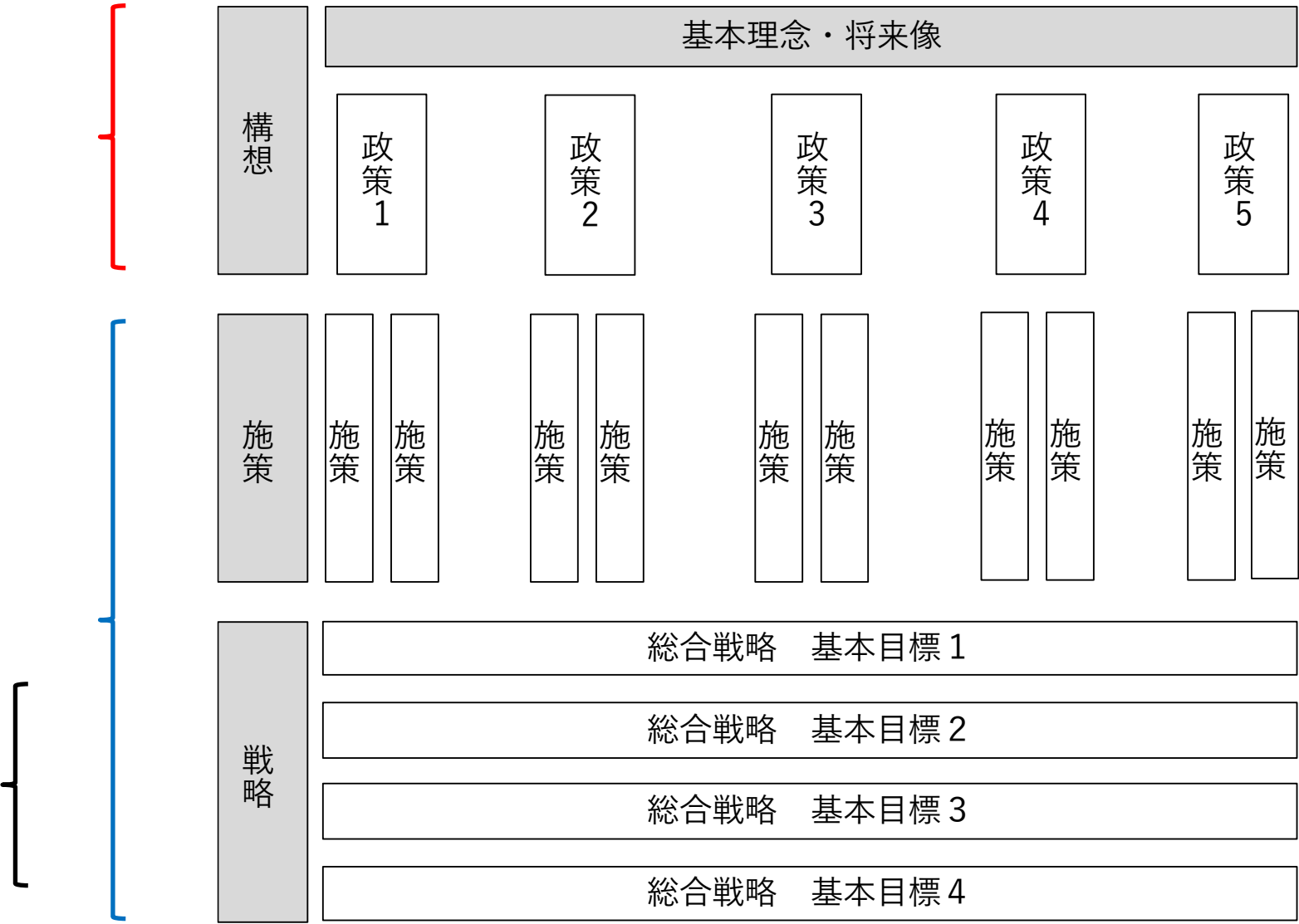
・計画期間は20年間

【基本計画】

・計画期間は4年間

【総合戦略】

・計画期間は4年間



目次構成	検討のポイント
第1章 序論	
1 総合計画について	・計画年度、基本計画・実施計画の位置付け ・総合計画、総合戦略の一体化と役割を整理 等
2 社会経済情勢の変化	・加速する人口減少、新たなライフスタイル・価値観、インバウンドの増加 等
3 第2次総合計画の振り返り	・関係各課ヒアリングを踏まえた定性的整理 等
4 安芸高田市の強みと課題	・統計データを活用した分析 等
第2章 基本構想	
1 基本理念と将来像	
(1)基本理念	・まちづくりに係る普遍的な考え方を整理 ⇒百万一心、未来へつなぐ安芸高田
(2)将来像	・市民参画意見を踏まえた上で、世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観・機能を設定 ⇒市民アンケート調査で定量的に把握し、将来像を検討
(3)将来像の実現に必要な目標数値	①目標人口（≡総合戦略・人口ビジョンで位置付け） ・住み続ける上で必要な生活サービス機能を維持するために必要な目標人口を設計 ⇒小学校、中学校などの教育機能の維持・確保など ②幸福度（新規追加の目標数値） ・市民アンケート調査結果を踏まえ、現況と将来的に目指す幸福度を設計
2 政策体系	・市長インタビューを実施し、所信表明との整合性を担保 ⇒3つの姿勢、5つの政策目標、それに基づく施策体系 ・各政策目標を実現するために検討すべき横断的な政策手段を検討 ⇒公民連携の強化、デジタルの活用、プロモーション
3 計画の推進	①政策の進め方 ・モデル地区の設定、モデル事業の設定、それら成果の他地区への横展開 等 ②地域との接点づくり【先進地を事例調査】 ・教育機関との連携（高校総合探究等）、市民向け報告会の開催（市民提案・挑戦を応援等）等 ③職員との接点づくり ・総合計画に位置付ける施策が地域・市民に与える影響・効果の明確化 等

目次構成	検討のポイント
第3章 基本計画	
3-1 リーディングプロジェクト【＝次期総合戦略として扱う】 ※現計画では、市における今後5年間の重点施策群で、将来像の実現に向け、重点的かつ分野横断的に取り組んでいく事柄を整理	
1 若者の定住促進強化プロジェクト	・次期総合戦略に置き換えて整理 ⇒Ⅰ 安心して住み続けられる環境をつくる事業 ⇒Ⅱ 人をつなげる事業 ⇒Ⅲ ここにしかない歴史・文化を未来につなげる事業 ⇒Ⅳ 循環の「環」をつなげる事業
2 地域経済の好循環推進プロジェクト	
3 次代を切り開く青少年育成プロジェクト	
4 コミュニティ活動の高度化プロジェクト	
3-2 分野別計画	・関係各課アンケート調査を踏まえ、位置付ける施策・具体取組を更新
3-3 横断計画	・デジタル、公民連携、シティプロモーション等の横断計画を位置付け

基本理念・・・まちづくりに係る普遍的な考え方

百万一心、未来へつなぐ安芸高田
(皆で力を合わせれば、何事もなし得る)

誰が？・・・・・・市民＋市に関わる多様な人々
誰に？・・・・・・20年後の次世代、子や孫たち
何をつなぐ？・・世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観・機能

価値観・機能の具体化



受け継いでいきたい 安芸高田の価値観

【安芸高田らしいものを大事に想う心】

- ・毛利元就の歴史・文化
- ・安芸高田神楽の歴史・文化
- ・サンフレッチェ広島とのつながり
- ・安芸高田わくながハンドボールとのつながり
- ・田舎の原風景（農地や森林等）

【安芸高田の人々のつながりを大事に想う心】

- ・コミュニティのつながり
- ・地域独自の祭り・イベント
- ・地元商店・企業の取り組み

【ゆとり、寛容性を大事に想う心】

- ・都会では得られないゆとり
- ・多様な人材を受け入れる寛容性

新しい価値観を生む・ まちの魅力を育む機能

【人々の価値観が交じり合う】

- ・クリスタルアージョ
- ・道の駅「三矢の里あきたかた」
- ・道の駅「北の関宿安芸高田」
- ・多文化共生センター

【まちの魅力を伝える】

- ・郡山城跡
- ・歴史民俗博物館
- ・土師ダム・公園
- ・神楽門前湯治村

【人々がやすらぐ】

- ・たかみや湯の森
- ・サッカー公園
- ・吉田運動公園

守っていききたい 地域にとっての暮らしの機能

【市民の移動】

- ・公共交通（鉄道・バス）

【市民の生活】

- ・小売（最寄品・買回品）

【市民の健康】

- ・医療、診療、高齢者福祉

【市民の安全、安心】

- ・防災、市民窓口（支所）

【子どもの未来】

- ・教育（小中高）、児童福祉、子育て支援

【市民の交流】

- ・文化、広場、集会所

【市民の学び】

- ・生涯学習、図書館

【市民の働く場】

- ・産業、働く場

将来像・・・基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態

①理想の価値観の状態

- ・「受け継いでいきたい安芸高田の価値観」に係る市民アンケート調査結果等を踏まえて、市民にとっての20年後の理想の価値観の状態を、コピーライティングにより示します。
⇒地区別集計、年齢別集計を実施し、全地区共通する理想の価値観、全年齢共通する理想の価値観などを分析

②理想のまちの状態

- ・「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」及び「守っていききたい地域にとっての暮らしの機能」に係る市民アンケート調査結果等を踏まえて、市民にとっての20年後の理想のまちの状態を、空間的に示します。
⇒地区別集計を実施し、各地区の理想のまち、全地区共通する理想のまちなどを分析
⇒年齢別集計を実施し、若年層、高齢層にとっての理想のまち、全世代共通する理想のまちなどを分析
- ・広島広域都市圏における安芸高田市の地理的な特性についても整理します。

目標指標・・・将来像の実現に必要な目標数値（市としてコミットする指標）

基本理念

百万一心、未来へつなぐ安芸高田

目標指標(案)：市民の幸福度

将来像

①受け継いでいきたい安芸高田の価値観

目標指標(案)：市民の地域への愛着度

②新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能

目標指標(案)：産業の付加価値額・地域経済循環率

③守っていききたい地域にとっての暮らしの機能

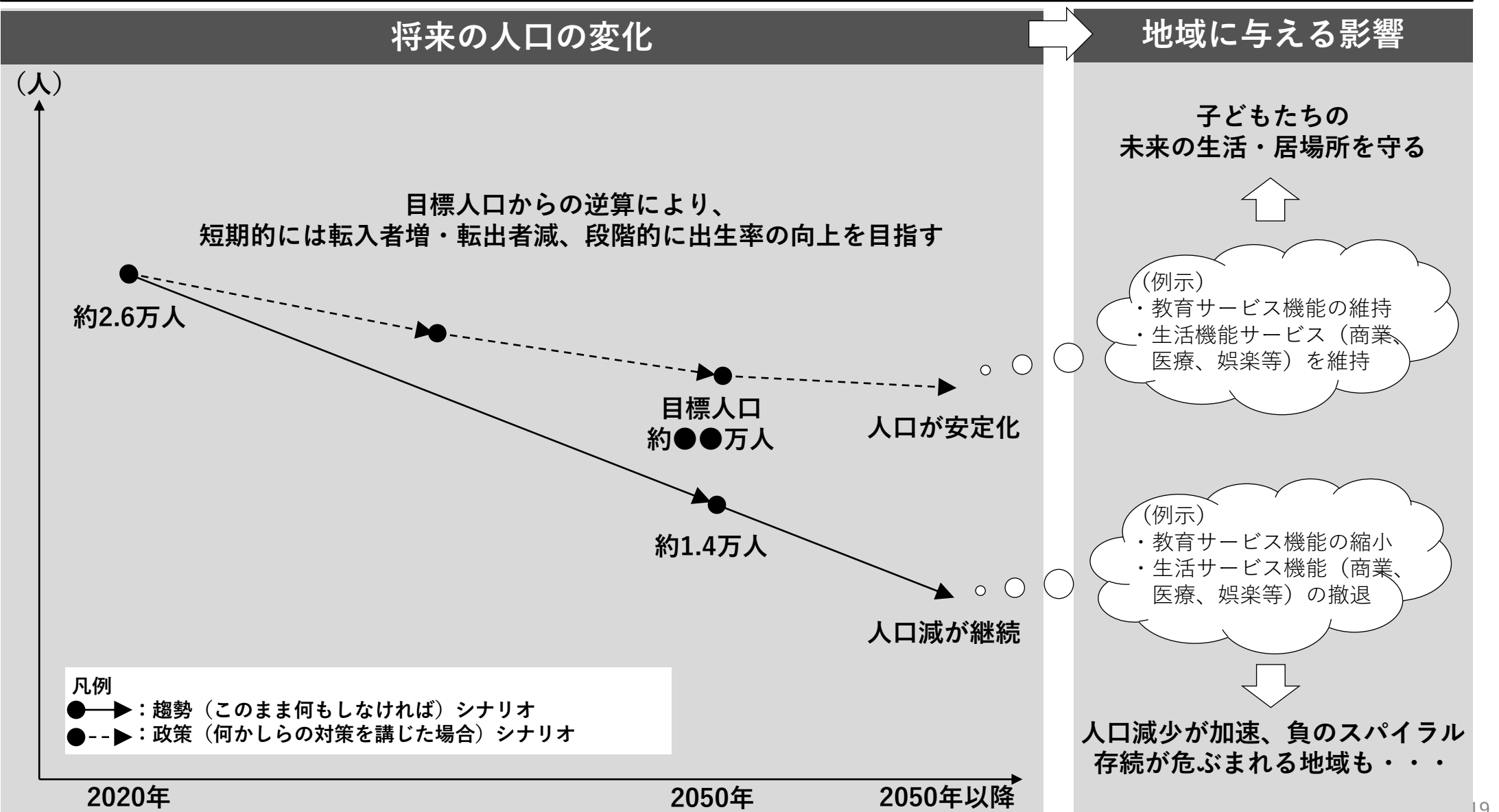
目標指標(案)：地域振興組織の活動への参加者

- ・基本構想の政策体系は以下のとおりです。
- ・横断的な政策手段として、①公民連携の強化、②デジタルの活用、③プロモーションの強化を図ります。

基本理念	将来像	3つの姿勢	政策目標	施策体系（名称は再考）
百万一心、未来へつなぐ安芸高田	理想の価値観の状態 理想のまちの状態	まとめる あったか やりぬく	①対話による改革	・行政と市民の対話による寛容なまちづくり ・公共施設の総延床面積の削減による行財政改革 ・行政職員のやりがいの確保と市民に日々向き合える市役所の体制の強化
			②暮らしやすい、あったかいまちづくり	・おたがいさまの気持ちで繋がり、誰も置き去りにしないまちづくり ・地域振興組織等による住民自治のまちづくり ・自然災害の激甚化・頻発化に対する防災・減災のまちづくり ・高齢者・子どもの見守りと居場所づくり ・買い物不便地域解消のための移動販売の推進 ・公共交通機関の空白地帯を補完するための取組の検討 ・多様性を認め合い、安心して暮らせる共生社会の実現 ・ひろしま安芸高田神楽の魅力発信と安芸高田市のファンの拡大 ・誰もがスポーツに親しみ、スポーツへの関心を高めることが出来る機会の創出 ・道の駅等の拠点施設を活用した市内外からの集客による賑わいの創出
			③すくすく子育てと学びの推進	・社会の未来を担う子どもを育てる制度と仕組みの見直し ・安心して産前産後期間を過ごせるためのサポート支援 ・子どもたちの共感性、内発性、創造性を伸ばす保育支援 ・子どもたちにより良い学習環境を提供するための取組の検討 ・いじめや不登校等悩みを抱える児童生徒を支援するための体制整備 ・フリースクールやオンライン教室を通じた子どもの学びの場の拡充・連携 ・多世代交流拠点としての役割も担う子ども食堂の実現
			④ぬくもりの福祉とシニアの底力の活用	・誰もが住み慣れた地域で暮らしを続けられるまちづくり ・高齢者の健康管理・介護予防、社会活動等への参加の推進 ・全ての市民の健康に欠かせない地域医療の体制の確保・強化
			⑤まちの原動力であるがんばる産業の推進	・企業誘致（IT企業等）による地域経済の活性化 ・市内商工業の振興に向けた各種団体との連携支援 ・農業経営基盤強化の推進による稼げる農業の実現 ・林業従事者の育成確保と適切な森林整備 ・自然、文化、歴史等の地域資源を生かした観光づくりの推進

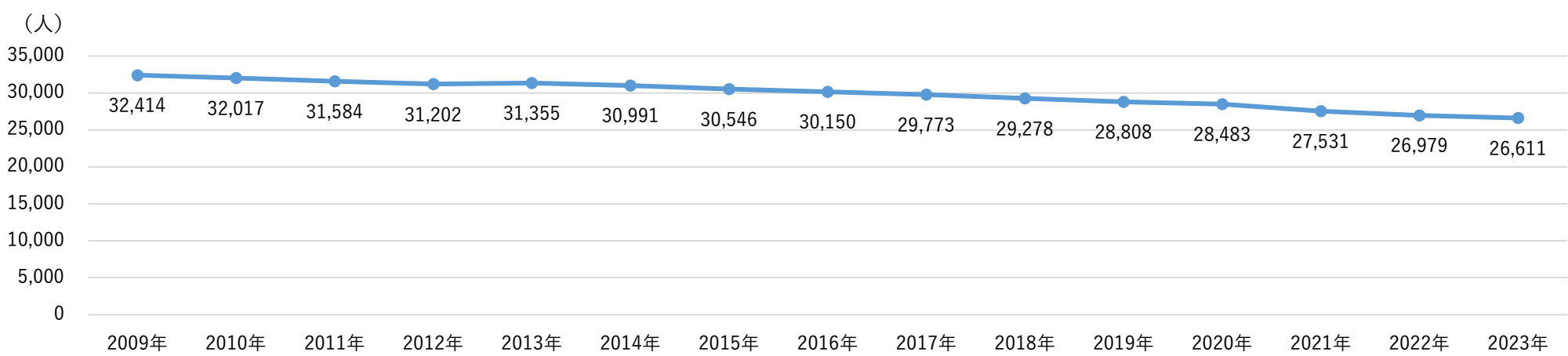
資料 5 次期人口ビジョン・次期総合戦略の素案

- ・ 2050年までの目標人口の設定（子どもたちの未来の生活・居場所を守る）
⇒人口変化が地域に与える影響を踏まえて、市役所・関係者がコミットする2050年までの目標人口を段階的に設定します。
- ・ 2050年以降の人口安定化の検討（人口の持続可能性を高め、目標人口の安定化を図る）
⇒2050年以降も目標人口と同水準の人口規模を維持出来なければ、子どもたちの未来の生活・居場所を守れません。
⇒日本全体の人口が減少し続ける中で、転入促進/転出抑制だけでは限界があり、長期的には出生率の向上を検討します。

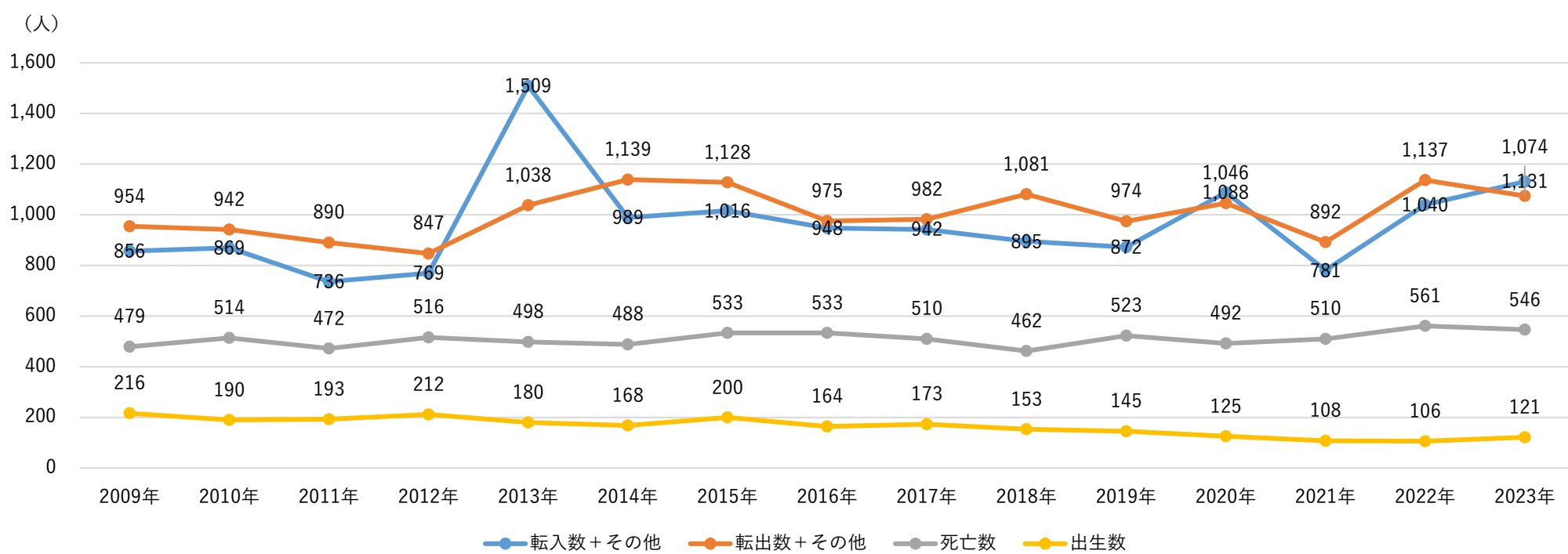


・人口は過去から現在まで減少傾向にあり、出生数は年々減少傾向にあります。

■総人口の長期的推移



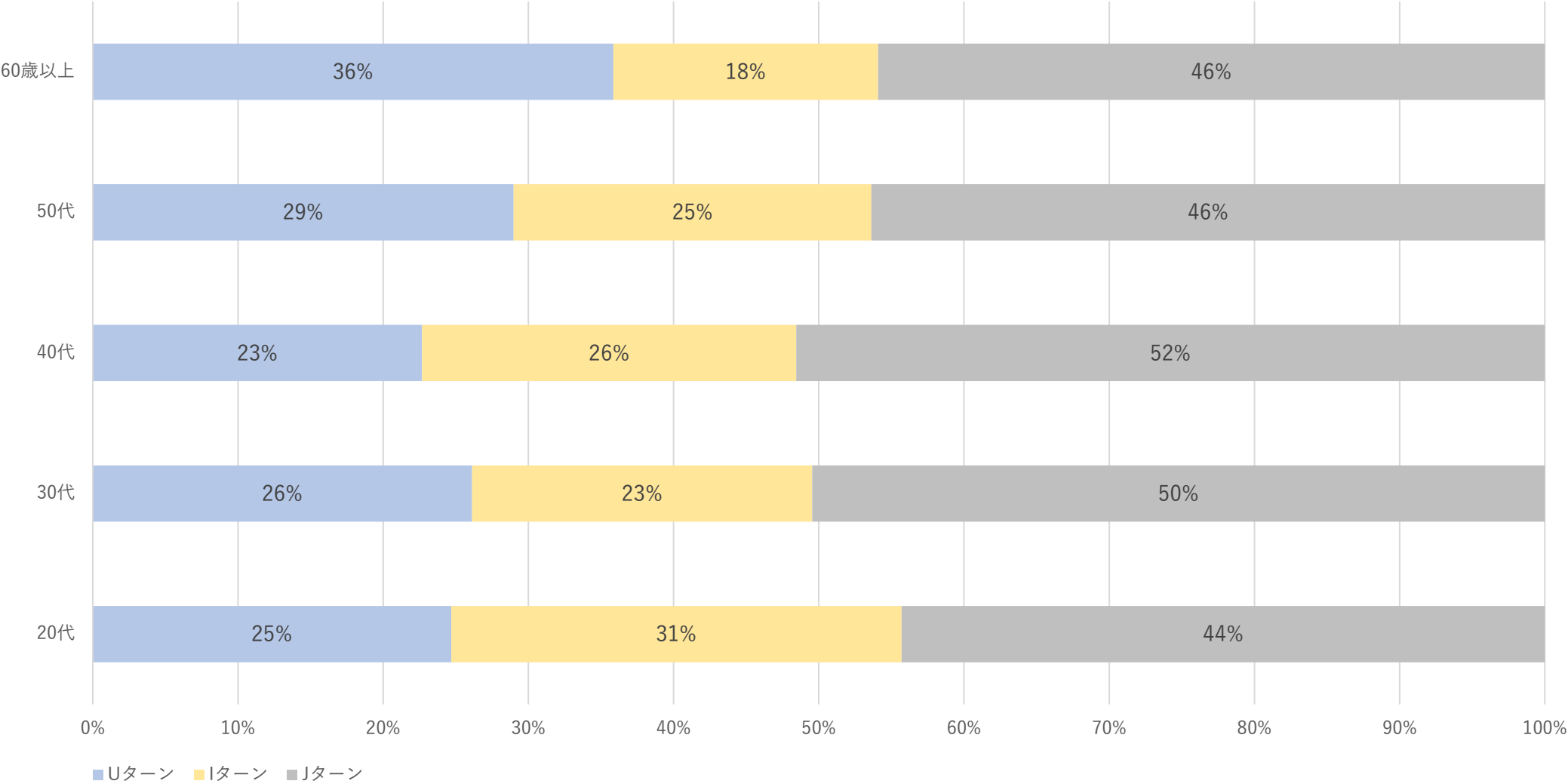
■自然増減と社会増減の長期的推移



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2010年～2024年

・安芸高田市では、全ての年齢層において、Jターン割合が最も高く、広島県出身者が多く移住する傾向にあります。

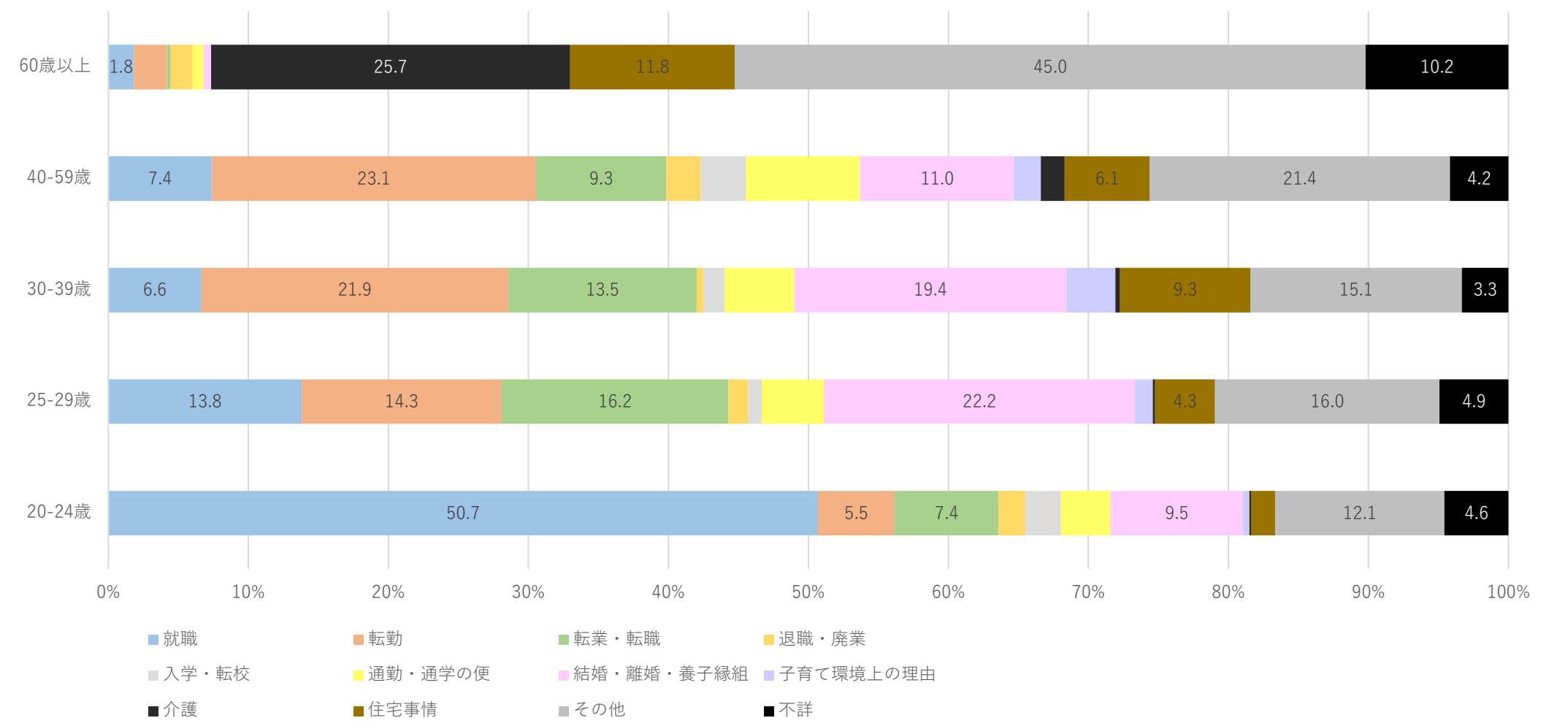
■年齢階級別・U/I/Jターン割合（平成30年10月～令和5年9月の5年間）



出典：広島県人口移動統計調査（乙調査）（平成30年10月～令和5年9月）
注：Uターンは15歳時の住所と安芸高田市、Iターンは15歳時の住所が広島県外、Jターンは15歳時の住所が広島県内安芸高田市以外（以降、同様）

・若年層の転出理由は①転勤、②結婚等、③転業・転職の割合が高い傾向にあります。
⇒転勤に対する政策関与は難しいですが、結婚して、子育てし易い環境づくり、魅力的な仕事づくり等の対策が重要と思料
・60歳以上転出者は「その他」理由が45%と高く、その理由の詳細を把握することが重要です。

■年齢階級別・移動理由割合（平成30年10月～令和5年9月の5年間）



出典：広島県人口移動統計調査（乙調査）（平成30年10月～令和5年9月）

・出生率とは、当該地域における出生を示す指標ですが、類似の指標が多く存在します。

・安芸高田市の人口ビジョンでは、①合計特殊出生率、②子ども女性比、③完結出生児数の出生力指標を活用します。

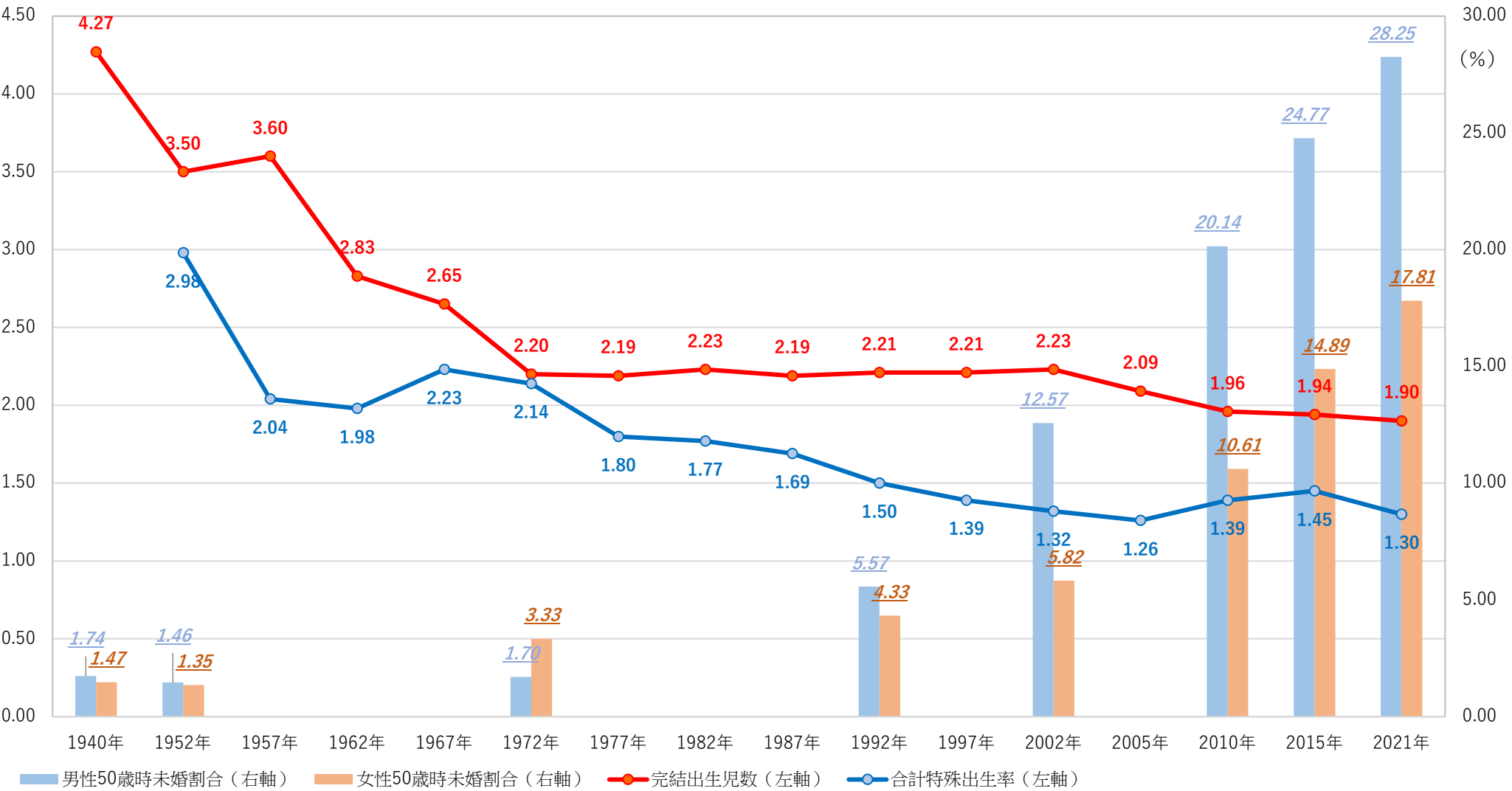
⇒人口ビジョンにおける将来人口推計で活用する指標：子ども女性比（合計特殊出生率は参考に並記）

■出生に係る指標の概要

出生に係る指標	計算概要	既往統計の存在	備考
合計特殊出生率	・15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計 ⇒分子：子どもの数 ⇒分母：未婚女性＋既婚女性＋その他(事実婚等)	・厚生労働省「人口動態統計」 ・市町村の合計特殊出生率は5年毎に公表	・一般的に認知されている出生力指標であり ・人口置換水準(親世代と子世代の人数が等しくなる水準)として合計特殊出生率2.07が良く使われる
子ども女性比	・20歳から44歳までの女子の人口に対する0-4歳までの子どもの人口の比 ⇒分子：子どもの数 ⇒分母：未婚女性＋既婚女性＋その他(事実婚等) ※従来は15歳から49歳までの女子の人口に対する0-4歳までの子どもの人口の比であったが、日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）より変更が生じている	・総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」、総務省「国勢調査」 ・住民基本台帳では1年毎に作成可能 ・国勢調査では5年毎に作成可能	・合計特殊出生率の代替指標として、国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口で活用
完結出生児数	・結婚持続期間が15～19年の初婚どうしの夫婦の平均出生子ども数 ⇒分子：既婚女性の子どもの数 ⇒分母：既婚女性（概ね50歳未満）	・国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査（夫婦調査）」 ・概ね5年毎に全国値を公表	・市町村値の算出は不可能

- ・ 完結出生児数は2010年以降、2.0を下回っていますが、**既婚女性が生涯に産む子どもの数に大きな変化はありません。**
- ・ 一方で、**合計特殊出生率は年々低下傾向**にあり、同時に、**男性・女性の50歳時未婚割合は上昇傾向**にあります。
- ・ 既婚女性が生涯に産む子どもの数に大きな変化がないため、**合計特殊出生率の低下は未婚割合の上昇が主原因**といえます。

■ 全国の出生に係る指標の長期的推移



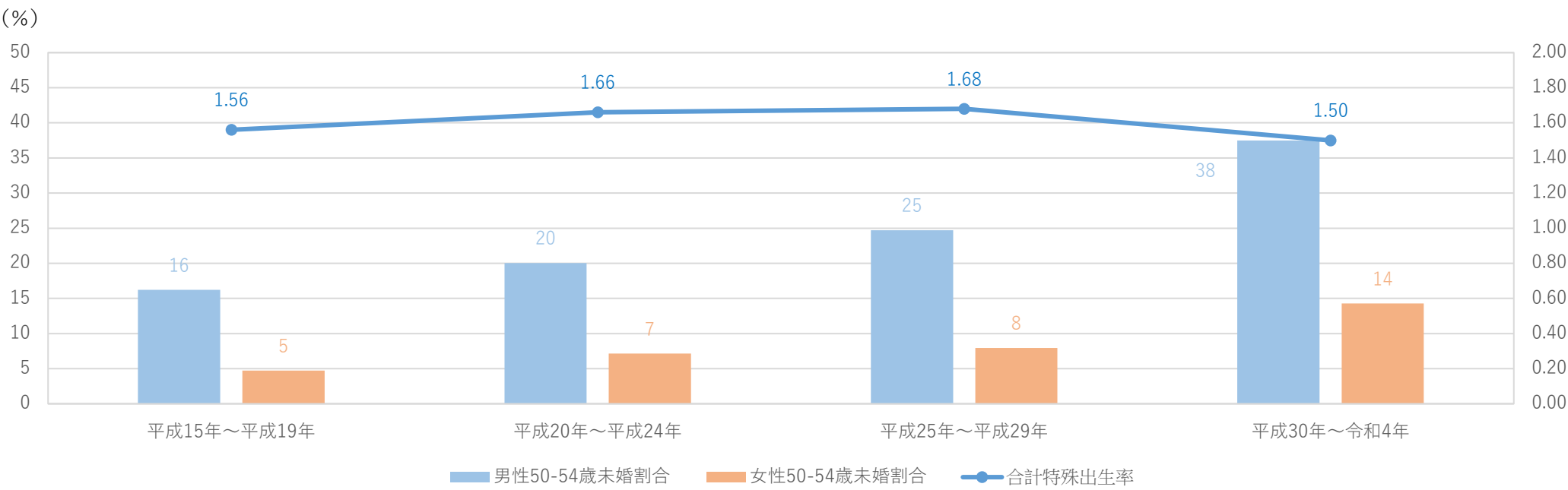
出典：完結出生児数は国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2021年）、男性50歳時未婚割合・女性50歳時未婚割合は国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」（2022年）、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態調査」を活用

注：完結出生児数及び合計特殊出生率の調査年度を基本として、男性・女性50歳時未婚割合の調査結果を当てはめており、必ずしも調査年度は一致しない。

24

- ・ 安芸高田市の合計特殊出生率は低下傾向にありますが、全国の合計特殊出生率を上回ります。
- ・ 男女共に50-54歳未婚割合が増加傾向にあり、合計特殊出生率が向上しにくい要因として、未婚割合の増加が思料されます。
- ・ 合計特殊出生率の向上に向けては、①子どもが欲しい既婚者を対象に第1子・第2子を産んで、子育てし易い環境づくりを推進、②結婚したい市民を対象に生涯未婚率を下げる施策の推進、などが考えられます。

■安芸高田市の出生率指標の長期的推移



出典：合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態調査」、男性50-54歳未婚割合、女性50-54歳未婚割合は総務省「国勢調査」を活用
注：男性50-54歳未婚割合、女性50-54歳未婚割合は、2005年、2010年、2015年、2020年の値

■出生率への施策介入のポイント

子どもの数

合計特殊出生率 =

未婚者 + 既婚者 + その他

①子どもが欲しい既婚者が対象

・ 第1子、第2子を産んで、子育てし易い環境づくり

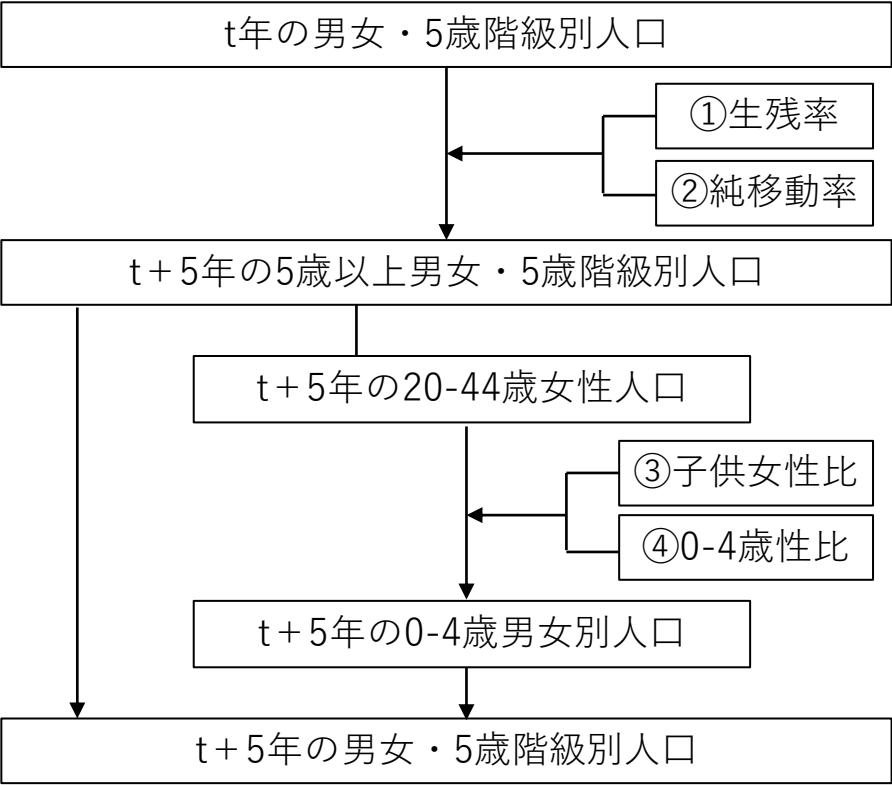
②結婚したい市民が対象

・ 生涯未婚率を下げる施策の推進

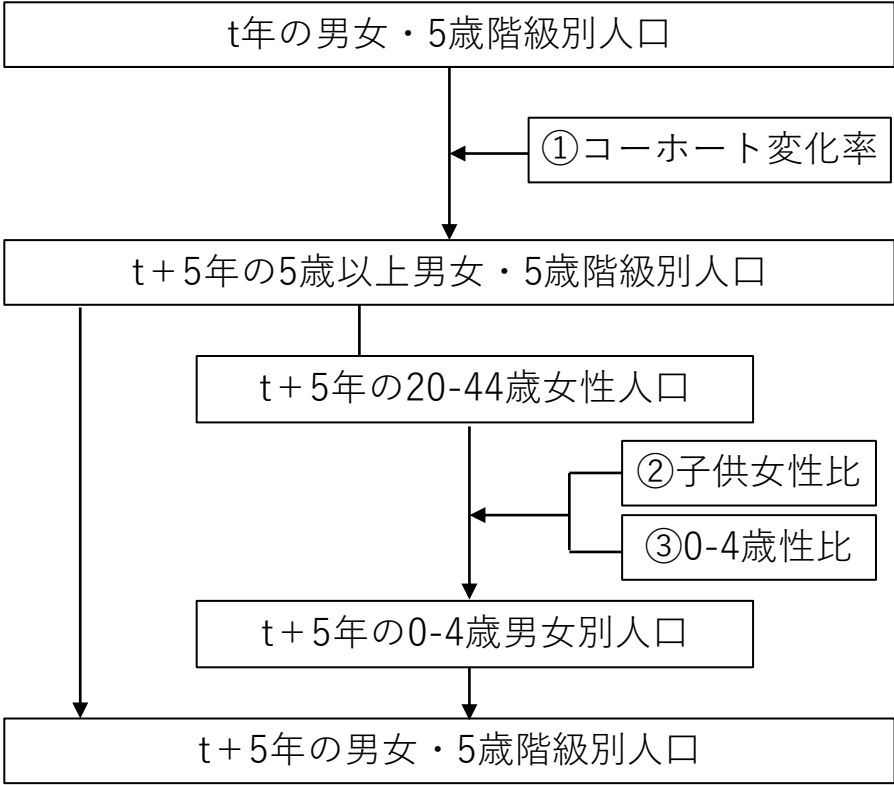
人口動向の指標		指標の特徴と施策介入のポイント
転出	転出 (若年以外)	●指標の特徴 ・短期的には成果を出しにくい、長期的には安定的な成果を出し得る指標と史料します。 ●施策介入のポイント ・結婚、転業・転職を理由とした転出割合が高い傾向にあるため、この対応策が必要です。 ・コミュニティの共助力を高めて、住民同士の助け合いや支え合いの地域風土を強化していくことも重要です。
	転出 (若年)	●指標の特徴 ・高校卒業時のタイミングで周期的に繰り返されます。 ●施策介入のポイント ・学生が高校卒業のタイミングで市外に転出する前に、地域への愛着を高めることが重要です。 ・市外に転出する前に、市からの情報発信を受け取って頂くためのプラットフォームに登録頂くことも重要です。
転入	Iターン	●指標の特徴 ・短期的には成果を出しにくいですが、長期で安定的に成果を出しにくい指標と史料します。 ・日本全体で移住誘致競争が続く中、持続的な成果創出に繋がりにくいターゲットとも言えます。 ●施策介入のポイント ・移住推進施策はプル施策とプッシュ施策の2タイプが存在します。 ⇒プル施策：移住支援補助金、県主催の移住イベントに参加、移住者向けツアーの開催 等 ⇒プッシュ施策：ブランディング等により、移住候補者の行動変容を促進 等 ・安芸高田市は外国人技能実習生が増加傾向にあり、このトレンドを活かすことが重要です。
	Jターン	
	Uターン	●指標の特徴 ・短期的には成果を出しにくいですが、長期的には安定的な成果を出し得る指標と史料します。 ●施策介入のポイント ・出身者のプラットフォームの構築と定期的な情報発信により、ライフステージの各タイミングでUターンの選択を選んで頂く方針が良いものと考えます。 ⇒新卒就職時の地元企業のインターンシップ、結婚・転職、親の介護、定年退職時 等
出生		●指標の特徴 ・短期的には成果を出しにくいですが、長期的には安定的な成果を出し得る指標と史料します。 ⇒中長期的な視点で、段階的に合計特殊出生率を高めていくスタンスが重要 ●施策介入のポイント ・日本全体で人口が減少し続ける中、転入促進だけでは人口の安定化は難しいと史料します。 ・子どもが欲しい既婚者を対象に、第1子、第2子を産んで、子育てし易い環境づくりを推進することが重要です。 ・結婚したい市民を対象に、生涯未婚率を下げる施策を推進することも重要です。
死亡		・市政としては健康寿命の延伸等の施策を推進しますが、総合戦略では対象外とします。

- ・ 将来人口推計手法は「コーホート要因法」及び「コーホート変化率法」に大別され、一般的にはコーホート変化率法と比較して、コーホート要因法の方が将来人口の推計精度が高いです。
- ・ このため、安芸高田市の将来人口推計はコーホート要因法を適用します。但し、**地区別将来人口推計では、地区別の①生存率・②純移動率の算出が難しいため、コーホート変化率法を適用**します。
- ・ なお、将来人口は安芸高田市の値をトータル値とし、地区別の将来人口との整合を図ります。

■コーホート要因法による推計フロー



■コーホート変化率法による推計フロー



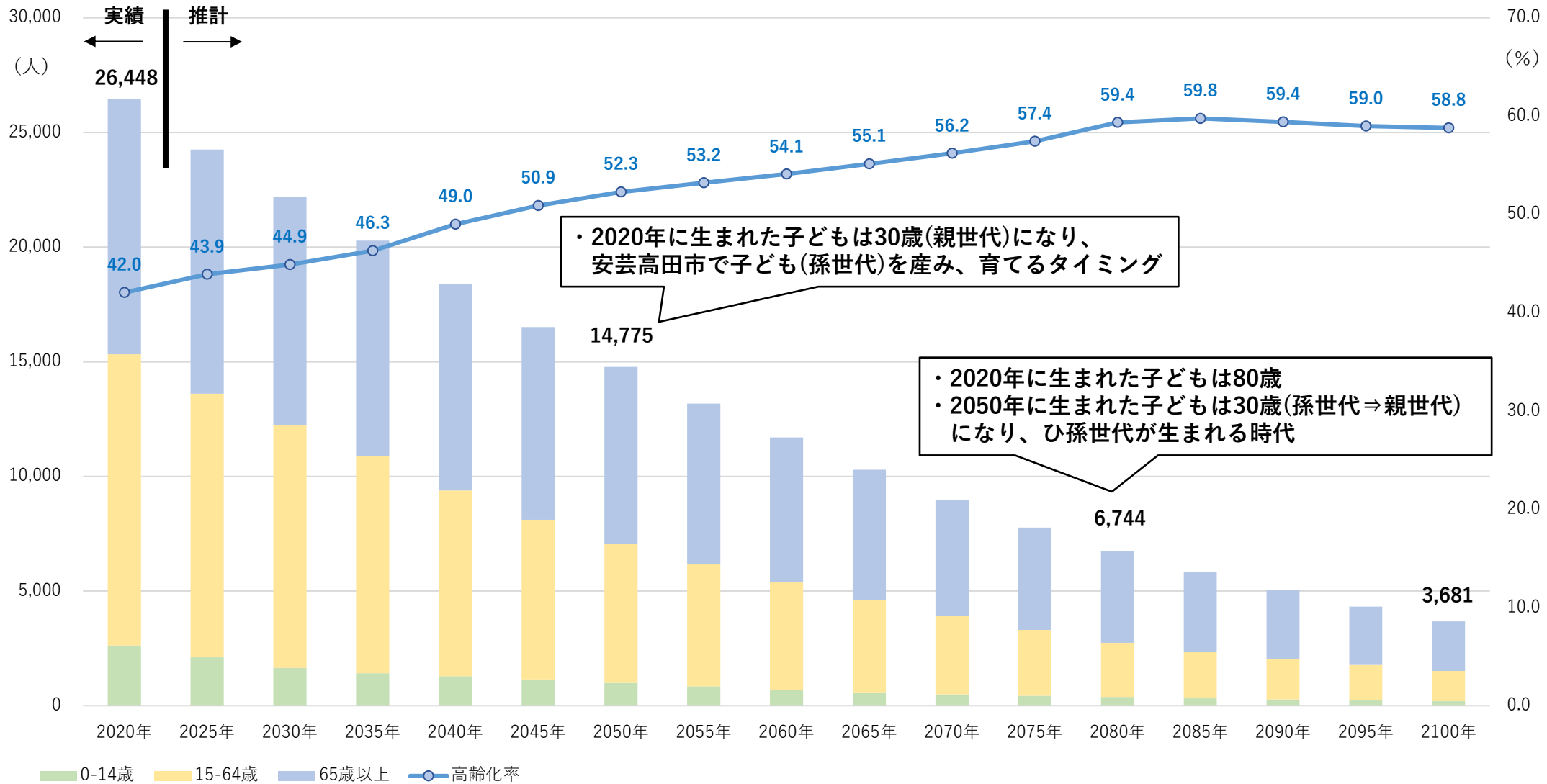
t=2020（将来人口推計における基準年）

【将来人口推計で活用するパラメータ（①～④）のイメージ】

- ・ 生残率は死亡率、純移動率は転入率-転出率、子供女性比は出生率、0-4歳性比は生まれてくる子供の性別の確率
- ・ コーホート変化率は生残率と純移動率を一つのパラメータに置換（転入率-転出率-死亡率のイメージ）

- ・ 安芸高田市趨勢人口の推計結果は以下のとおりで、このまま何もしなければ、人口は下げ止まることなく減少し続け、高齢化率も増加し、**税収の減少、生活利便施設の撤退、コミュニティの衰退等あらゆる地域課題が起こります。**
- ・ 人口減少を楽観視することなく、超長期的な視点に立ち、段階的に人口減少の下げ幅を縮小していくことが重要です。

■安芸高田市趨勢人口（このまま何もしなければ）の超長期推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所 都道府県・市区町村別の男女・年齢（5歳）階級別将来推計人口-『日本の地域別将来推計人口』（令和5（2023）年推計）を活用して、2055年以降は2050年時点の各種パラメータ（子ども女性比、生残率、純移動率、0-4歳性比）が変化しないものとして、独自に推計

- ・地区別の趨勢人口をみると、市全体の総人口の人口減少率を上回る地区は高宮地区・甲田地区・向原地区となります。
- ・20-30代女性人口の人口減少率も同様に、高宮地区・甲田地区・向原地区で高い傾向にあります。

■地区別の趨勢人口（このまま何もしなければ）

町名	総人口（人）							増減率％ （2020年～2050年）
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	
吉田地区	9,686	9,069	8,462	7,876	7,275	6,638	6,036	-37.7
八千代地区	3,688	3,367	3,084	2,846	2,610	2,368	2,121	-42.5
美土里地区	2,337	2,126	1,976	1,855	1,738	1,620	1,510	-35.4
高宮地区	2,857	2,515	2,214	1,953	1,714	1,492	1,298	-54.6
甲田地区	4,454	4,078	3,688	3,304	2,930	2,568	2,252	-49.4
向原地区	3,426	3,096	2,772	2,449	2,131	1,827	1,557	-54.5
合計	26,448	24,251	22,197	20,283	18,398	16,515	14,775	-44.1

町名	20-30代女性人口（人）							増減率％ （2020年～2050年）
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	
吉田地区	822	738	669	605	508	419	346	-57.9
八千代地区	228	224	228	248	248	228	194	-14.9
美土里地区	161	168	161	153	132	101	91	-43.2
高宮地区	154	139	110	96	71	57	41	-73.3
甲田地区	281	204	150	127	113	102	88	-68.7
向原地区	198	162	143	138	104	76	54	-72.9
合計	1,844	1,635	1,462	1,367	1,178	982	814	-55.9

注1：地区別の趨勢人口はコーホート変化率法により推計（性別・5歳階級別コーホート変化率、子ども女性比は地区別に算出）

- ・20-30代女性人口の減少率が高い地区では、小学生の数の減少率も高い傾向にあります。
- ・2050年には、1学年当たりの小学生の数が10人を下回る地区も発生します。

■地区別の趨勢人口（このまま何もしなければ）

町名	小学生の数（人）							増減率％ （2020年～2050年）
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	
吉田地区	467	379	297	249	228	208	180	-62
八千代地区	169	143	95	87	92	95	92	-45
美土里地区	100	80	65	63	63	60	54	-47
高宮地区	103	71	51	44	38	31	25	-76
甲田地区	215	198	145	106	84	68	56	-74
向原地区	123	88	54	42	36	31	25	-80
合計	1,177	959	707	592	542	493	431	-63

町名	1学年当たりの小学生の数（人）							増減率％ （2020年～2050年）
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	
吉田地区	78	63	50	42	38	35	30	-62
八千代地区	28	24	16	15	15	16	15	-45
美土里地区	17	13	11	11	11	10	9	-47
高宮地区	17	12	8	7	6	5	4	-76
甲田地区	36	33	24	18	14	11	9	-74
向原地区	21	15	9	7	6	5	4	-80
合計	196	160	118	99	90	82	72	-63

注1：小学生の数は、5-14歳人口（10歳分の人口）に3/5（6学年分の人口）を乗じることにより算出
注2：1学年当たりの小学生の数は、小学生の数を6（6学年分）で割ることにより算出
注3：地区別の趨勢人口はコーホート変化率法により推計（性別・5歳階級別コーホート変化率、子ども女性比は地区別に算出）

■参考：文部科学省における小学校の複式学級編成基準の考え方

＜小学校＞

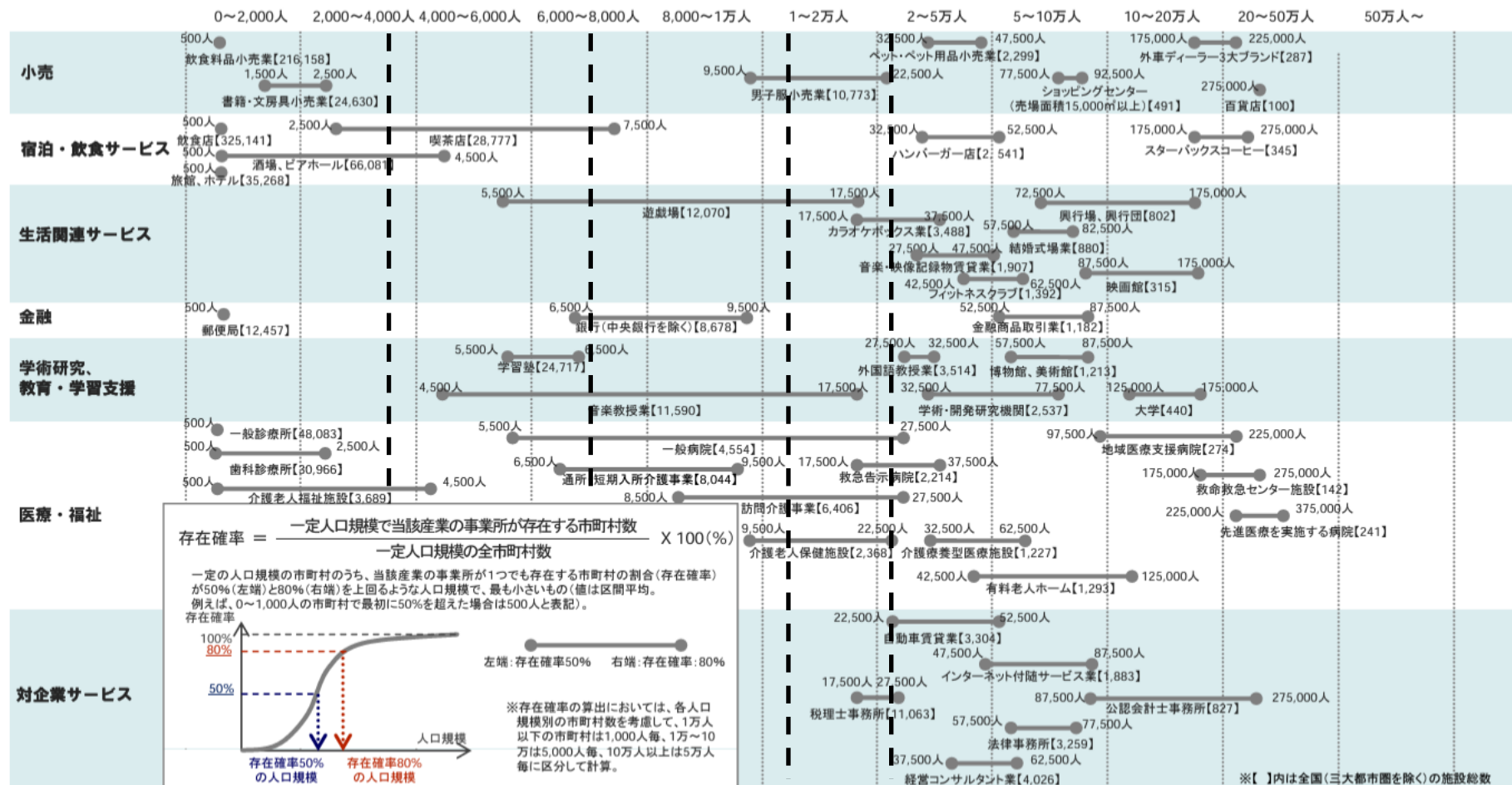
- ・複式学級～他の学年の児童と合わせて16人までのときは、これをもって1学級を編制する。但し1年生を含むときは8人とする。

- ・人口変化が安芸高田市に与える影響への対応策として、以下の対応策（需要側・供給側）が想定されます。
- ・生活関連サービスの縮小、学校の統廃合への対応策として、20年後にも一定の人口規模を維持することが必要です。

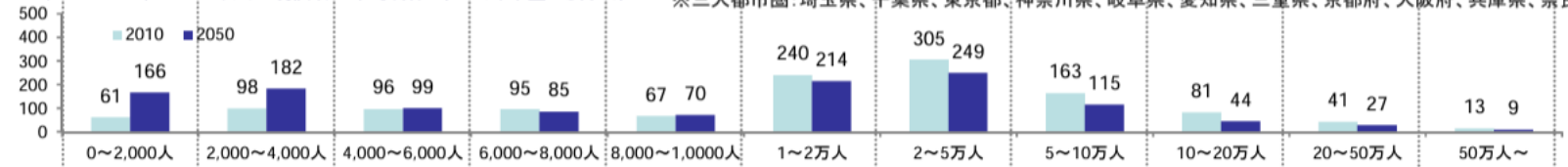
想定される影響の項目	需要側の対応策	供給側の対応策
生活関連サービス (小売・飲食・娯楽・医療機関等) の縮小	【需要側は人口】 ・人口規模別の生活関連サービス施設の立地する確率より、少なくとも人口規模1.75万人を維持	【供給側は施設】 ・デジタル活用による効率化 等
就業機会の減少	---	【供給側は企業】 ・デジタル導入による生産性向上 ・一人当たりの付加価値額の向上 等
行政サービスの低下	【需要側は人口】 ・立地適正化の推進による居住誘導区域の人口密度の維持 等	【供給側は行政】 ・公共施設の再配置(集約・縮小等)による行政サービスの最適化 ・外部人材の活用による行政サービスの効率化や効果的な運用 等
地域公共交通の撤退・縮小	【需要側は人口】 ・地域公共交通計画の推進による公共交通沿線の人口密度の維持 等	【供給側は交通事業者】 ・MaaSをはじめ、オンデマンド交通やライドシェアの導入、バス・タクシーの自動運転化等の対応 等
空き家・空き店舗・耕作放棄地の増加	【需要側は関係人口】 ・関係人口の創出・拡大による週末農業、二拠点居住(空き家活用等)の推進 等	---
住民組織の担い手不足	【需要側は関係人口】 ・大学生、安芸高田市のファンを増やすことによる担い手不足の解消 等	---
学校の統廃合	【需要側は子どもの数】 ・文部科学省の複式学級編成基準を参考に、1学年が8人を下回らないように人口規模を維持 等	【供給側は教員】 ・少人数制教育により教育の質を向上 等
地域コミュニティの機能低下	【需要側は活動量】 ・居住人口及び関係人口の活動量を増やす 等	---

安芸高田市の人口変化

年	人口
2100年	3,681人
2080年	6,744人
2050年	14,775人
2020年	26,448人



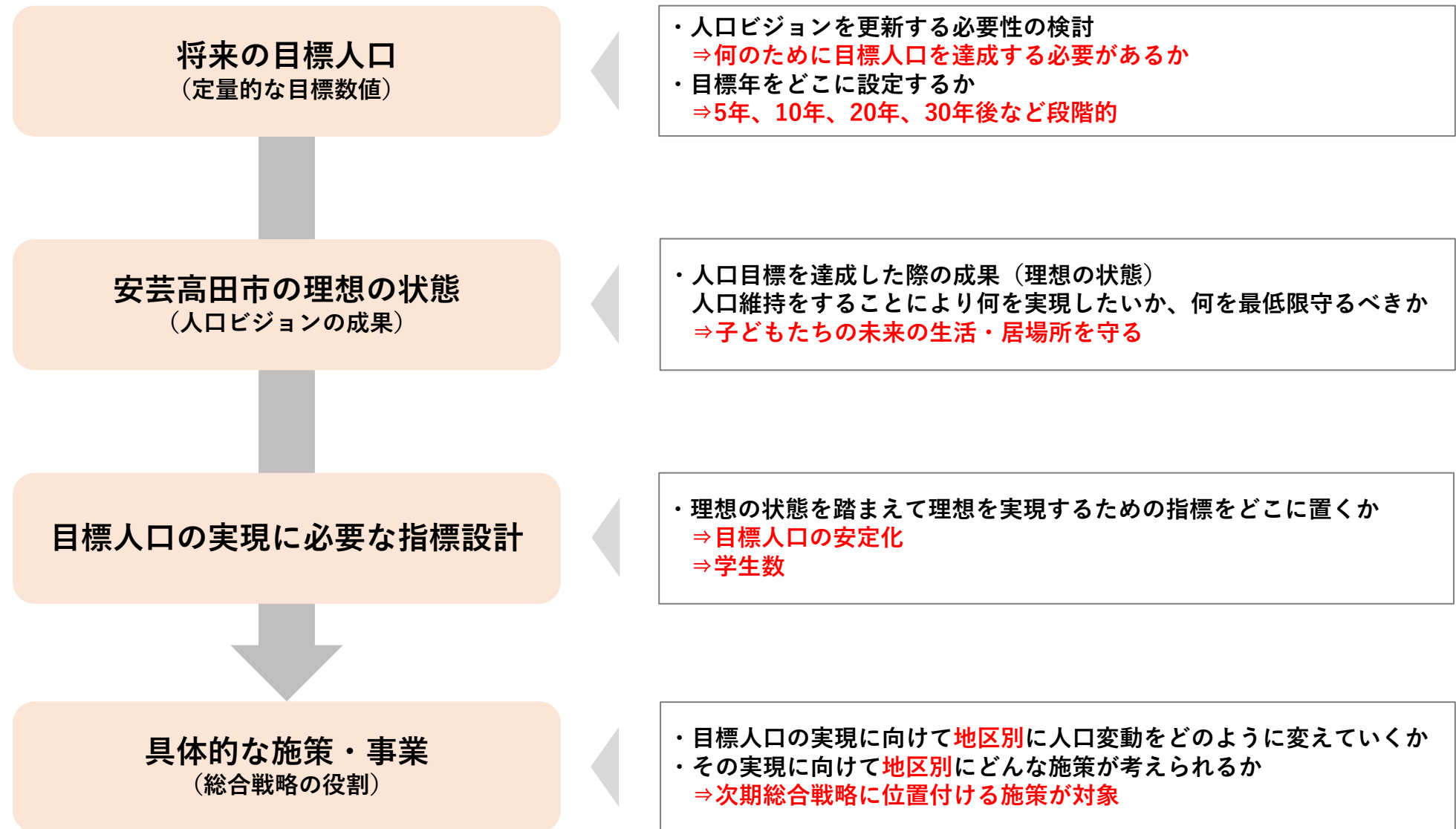
(参考) 2010年と2050年における人口規模別の市町村数(三大都市圏※を除く)



(注1) 2050年の市町村別人口は、国土交通省国土政策局推計値

(注2) 2010年、2050年ともに、人口規模別の市町村数は、平成22(2010)年12月1日現在の三大都市圏を除く1,260市区町村を基準に分類

(出典) 総務省「平成21年度経済センサス」、厚生労働省「医療施設調査 病院報告(平成24年10月)」、同「介護サービス施設・事業所調査(平成24年10月)」日本救急医学会HP、wellnes HP、日本ショッピングセンター協会資料、日本百貨店協会HP、メルセデスベンツ・フォルクスワーゲン・BMW各HP、スターバックスコーヒージャパン資料をもとに、国土交通省国土政策局作成

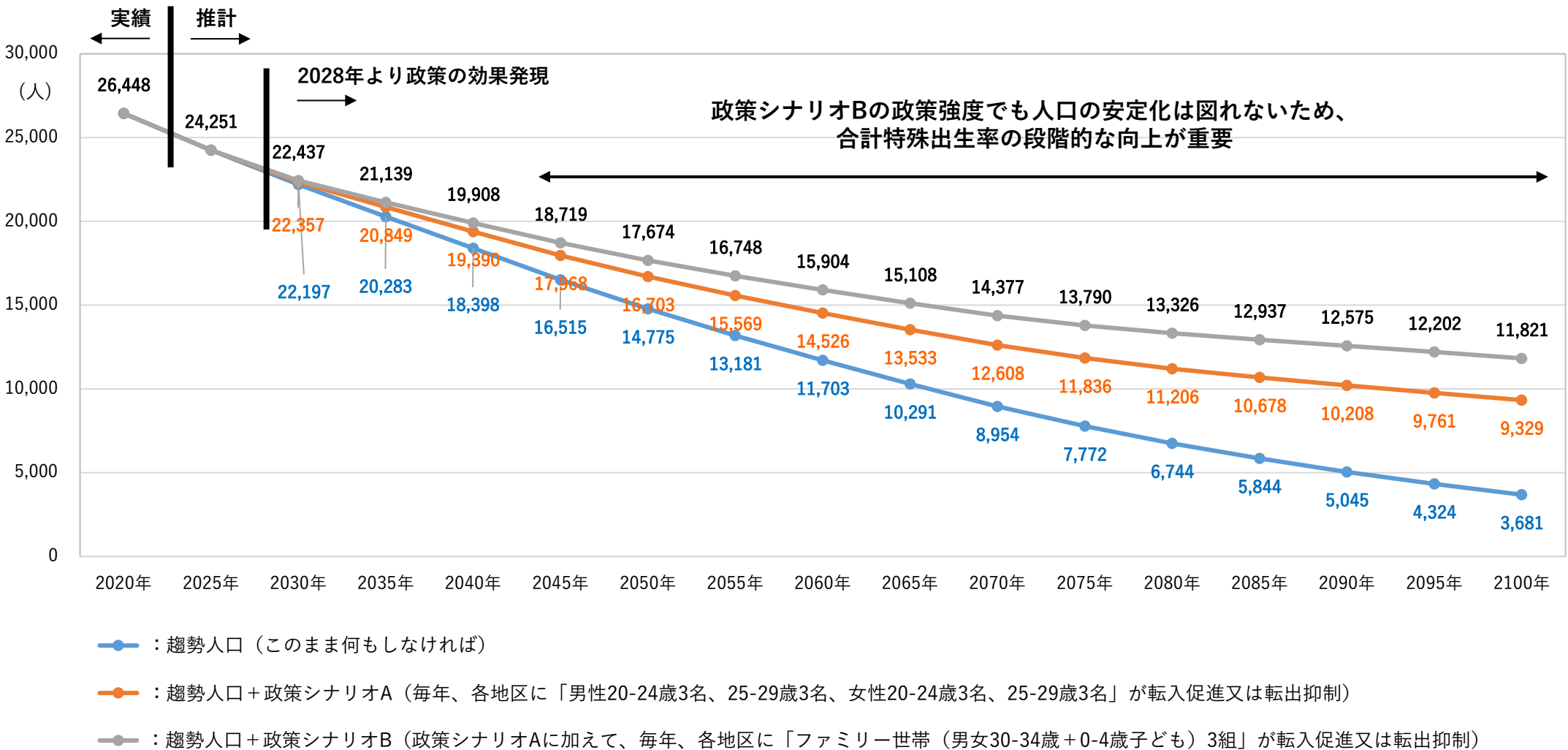


【前提及び目的】

・2050年の人口を1.75万人とするためには、どの程度の政策強度が必要かシミュレーションで検証します。

【シミュレーション結果】

- ・毎年、各地区に「若年男性3名、若年女性3名」の転入促進又は転出抑制を図る政策シナリオAでは目的を達成できません。
- ・毎年、各地区に「若年男性3名、若年女性3名」 + 「ファミリー世帯 3 組」の転入促進又は転出抑制を図る政策シナリオBであれば、2050年の人口1.75万人は達成できますが、2050年以降の人口の安定化は図れません。
- ・日本全体で人口が減少し続ける中、転入促進施策だけでは持続的な成果創出には繋がりにくいと思料されるため、**合計特殊出生率の段階的な向上により、人口構造の持続可能性を高めていく必要があります。**



【総合戦略の目的】

・安芸高田市における人口減少対策、地方創生の方針を示します。

【次期総合戦略の基本骨格の設計方法】

・現行総合戦略の基本目標や人口ビジョンで得られた結果を踏まえて、人口減少対策に向けた政策の対象を設定し、施策・事業を検討します。

【人口ビジョン等の検討で得られた知見】

- ・目標人口の達成には毎年、各地区で若年男女の転入促進又は転出抑制が必要 ⇒外国人技能実習生を想定
- ・目標人口の達成には毎年、各地区でファミリー世帯の転入促進又は転出抑制が必要 ⇒ファミリー世帯（Jターン）を想定
- ・安芸高田市への移住・促進を図る上で、通勤者を含む多様な関係人口を創出し、地域を知ってもらうことが重要
- ・安芸高田市はUターン割合が低いため、学生が卒業して市外に出る前に、地域への愛着を高めて頂くことが重要 等

目指す将来像の実現
子どもたちの未来の生活・居場所を守る



目指す人口（2045年：●●●●人）



政策シナリオを踏まえて、今後、以下の数値目標を設定
●●人/年の転入促進
●●人/年の転出抑制 ●●%/年の合計特殊出生率の向上

	基本目標Ⅰ	基本目標Ⅱ	基本目標Ⅲ	基本目標Ⅳ
テーマ	安心して住み続けられる環境をつくる事業	人をつなげる事業	ここにしかない歴史・文化を未来につなげる事業	循環の「環」をつなげる事業
人口減少対策に向けた政策の対象（たたき台）	ファミリー世帯（Jターン） 外国人技能実習生 地域振興組織（コミュニティ）	学校（児童・学生） 地元企業	関係人口・観光客	移住者（Iターン）
検討方針	人口ビジョン等の結果を踏まえて、目標人口からの逆算思考で真に必要な施策・事業を検討			
横断施策	公民連携の強化、デジタルの活用、プロモーションの強化			
目標人口への寄与	転入促進・転出抑制 合計特殊出生率の向上	転入促進 （将来のUターン候補）	転入促進 （地域をまずは知る）	転入促進 （都会では得難い魅力）

第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像

【第2次総合戦略策定の目的】

今後も、安芸高田らしさを維持しながら、
持続的に発展していける姿を示す

○SDGsの理念を通じて、豊かで活力のある未来をつくる

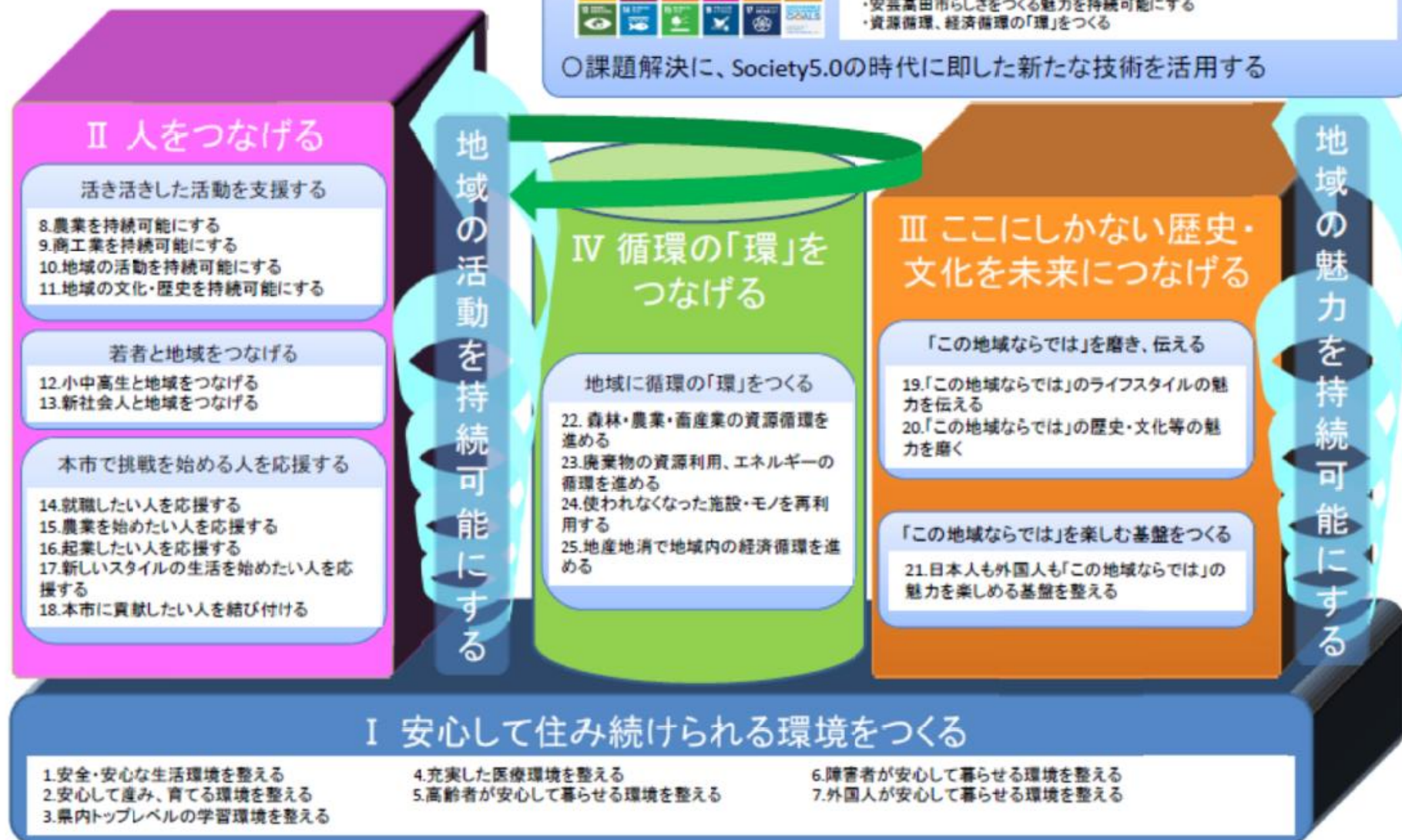


【SDGsの理念】

誰もが置き去りにされることのない、持続可能で多様性のある社会を実現する

- ・誰もが安心して住み続けられる環境をつくる
- ・地域の活動・営みを持続可能にする
- ・安芸高田市らしさをつくる魅力を持続可能にする
- ・資源循環、経済循環の「環」をつくる

○課題解決に、Society5.0の時代に即した新たな技術を活用する



- 徳島県神山町は約4,700人（令和6年時点）の人口規模にも関わらず、テクノロジー/デザイン/起業家精神を学べる新たな高等専門学校を2023年に開校しており、人口減少抑制や進学先の選択肢の多様性など推進しています。
- 神山まると高等専門学校の開校により、学生200名（一学年40名）、30名を超える教職員が神山町に移住したり行き来したりすることによって、関係人口の増加や毎年約3.4億円の経済波及効果が見込まれています。
- 開校資金には企業版ふるさと納税も活用されており、子どもたちの未来への投資が行われていると言えます。

基本情報

名称	神山まると高等専門学校
学科名	デザイン・エンジニアリング学科
開校日	2023年4月2日
定員数	1学年40名程度
所在地	徳島県名西郡神山町神領西上角175-1
教員	21名（非常勤講師は除く）
就学スタイル	全寮制
学べること	テクノロジー / デザイン / 起業家精神

教員について

一般科目

中学・高校の教員が中心
英語、国語、数学、物理、科学、
歴史、経済、哲学など

10名

専門科目

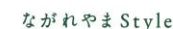
高専・大学の教員、実務家教員
情報、プログラミング、電気電子、
デザイン、アート、起業家精神など

11名



- 千葉県流山市は約21万人（令和6年時点）の人口規模で、「母になるなら、流山市。」のコンセプトで、共働きの若い世代をターゲットにプロモーションを推進し、現在では全国の市で人口増加率トップの成果を出しています。
- また、千葉県流山市ブランディングサイト「ながれやまStyle」も構築しており、「自分にあった、自分らしい暮らしを楽しむ。」流山市ならではのライフスタイルを数多く紹介しています。

- ・また、千葉県流山市ブランディングサイト「ながれやまStyle」も構築しており、「自分にあった、自分らしい暮らしを楽しむ。」流山市ならではのライフスタイルを数多く紹介しています。



●通勤者へのアンケート調査の概要

【調査目的】

- ・安芸高田市外から安芸高田市に通勤する方（以降、通勤者）の実態把握
- ・通勤者の安芸高田市への転入可能性、関係人口化の可能性の検証

※通勤者と定住者の比較分析も実施するため、一部設問は定住者も対象

【調査対象（想定）】

- ・商工会＋市工業会への参加企業のうち、アンケートWEB調査が可能な企業

【調査方法（想定）】

- ・アンケートWEB調査票を企業に配信し、回収

【調査時期】

- ・令和6年度中

【調査設問（案）】

- ・今後、関係者と議論して、調査設問を確定

区分	設問	狙い	備考
基本属性	・性別、年齢、世帯構成 ・業種、世帯年収 ・居住地、住居形態、 ・通勤年数、転勤の有無	・基本事項の確認	・通勤者＋定住者が調査対象
安芸高田市の認知度	・安芸高田市の特徴の認知度 ⇒安芸高田神楽、毛利元就、サン フレッチェ広島 等	・安芸高田市への関心度合いの確認	・通勤者＋定住者が調査対象
安芸高田市への通勤時間	・通勤時間 ・通勤時間に対する認識 ⇒長い/短い 等	・通勤者にとって通勤時間が障壁に なっているか、前提を確認	・通勤者が調査対象
安芸高田市への転入意向	・5年以内の転入意向 ⇒ありの場合、その理由 ⇒なしの場合、その理由	・転入支援策の検討で活用	・通勤者が調査対象
居住地の選択理由	・居住地の選択理由 ※通勤している理由の裏返し	・安芸高田市に足りない機能を把握	・通勤者＋定住者が調査対象
今後の関わり	・平日/休日の関わりの可能性 ・どのような状況であれば安芸高田 市に関わってみたいか	・関係人口化の検討で活用	・通勤者が調査対象

●外国人へのアンケート調査の概要

●外国人へのアンケート調査の概要

【調査目的】

- ・外国人の地域への関心のステップアップ（無関心層⇒関心層⇒定住（永住・帰化））のニーズ・課題の把握

※外国人受け入れ企業のニーズ・課題については、今後、企業へのインタビュー調査を実施

【調査対象（想定）】

- ・安芸高田市に居住する技能実習生及び特定技能実習生

【調査方法（想定）】

- ・企業経由でアンケート調査を外国人に郵送し、回収（全数把握調査の可能性も今後検討）

【調査時期】

- ・令和6年度中

【調査設問（案）】

- ・今後、関係者と議論して、調査設問を確定

区分	設問	狙い	備考
基本属性	・性別、年齢、出身国 ・居住地区、在住年数 ・受け入れ先の業種 ・結婚の有無	・基本事項の確認	・クロス集計項目で活用
安芸高田市の認知度	・安芸高田市の特徴の認知度 ⇒安芸高田神楽、毛利元就、サンフレッチェ広島 等	・安芸高田市への関心度合いの確認	
職場の就労環境	・就業先として日本を選択した理由 ・現在の会社で就業することになった理由 ・現在の職場で困っていること ・現在の職場での相談相手の有無	・関心層に移る上での課題の把握	・実態を把握して、ニーズ・課題を分析
日常の生活環境	・平日/休日の外出目的・場所・頻度 ・職場以外での交流関係 ・相談が出来る日本人の有無	・関心層に移る上でのニーズの把握	
今後の就労意向	・今後の安芸高田市での就労意向 ⇒はい/いいえでそれぞれ理由を把握	・定住する上でのニーズ・課題の把握	
あると良い 支援・サポート	・在住年数初期にあると良い支援・サポート ⇒言語の障壁/話すこと・話されることの恐怖心の克服、職場の人間関係改善 等 ・在住年数数年にあると良い支援・サポート ⇒文化の違いに寛容な賃貸住宅 ⇒職場と自宅以外の第3の居場所 ⇒地域、住民との交流・関わりの支援 等	・地域への関心のステップアップにおける障壁を確認し、施策検討で活用	・ニーズ・課題を直接把握